

2024 年度事業計画

〔 自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日 〕

航空科学博物館 2024 年度事業計画

昨年度、博物館法が改正され、従来の博物館の在り方や、教育や文化の域を超えて、まちづくり、観光、福祉、国際交流といった、社会的・地域的課題と向き合い、地域の活力の向上へ寄与することが求められる中、当館は、関係者の方々の、様々なご支援、ご協力により支えられ、事業を進めることができました。

2024 年度は、航空業界が、コロナ禍からの需要回復を鮮明していく中、当館は 35 周年の節目を迎えることとなります。日本初の航空専門の博物館としての矜持を持ち、博物館に対する社会的要請の多様化・高度化を踏まえて、当館は、多様性を尊重し、様々な方々から愛され必要とされる博物館を目指します。また、航空人財の育成等を通じて、航空の発展に寄与すべく、顧客志向と脱自前主義の精神を堅持し、様々な方々との絆を強固にしなが、当館の使命を確実に果たしてまいります。

1. 基本とする取り組み姿勢

2024 年度は、以下の 3 点を事業取り組みの基本姿勢とします。

- (1) 博物館に対する社会からの要請の変化を踏まえて、多様性を尊重のうえ、お客様に安全で安心できる環境を提供し、当館の使命を果たすべく、提供価値の磨き上げを行います。
- (2) 関係者の方々との絆を強固にし、効果的なプロモーションを実施すると共に、コスト削減と効率的な業務運営を行い、コロナ禍前の水準の来館者数と収入の確保を目指します。
- (3) 空港・航空業界と空港周辺地域との懸け橋となり、空港隣接の観光・文化拠点、情報発信拠点として、地域の活力の向上、空港圏の繁栄に貢献します。

- (1) 博物館に対する社会からの要請の変化を踏まえて、多様性を尊重のうえ、お客様に安全で安心できる環境を提供し、当館の使命を果たすべく、提供価値の磨き上げを行います。

① 当館の使命の遂行

定款に掲げる「航空に関する科学知識の啓発」について、学校教育・社会教育・文化の観点から、また、博物館に求められる役割・機能の変化・高度化を踏まえて、日本初の航空専門の博物館として、多様性を尊重のうえ、当館の使命を遂行してまいります。

当館ならではの強みを活かした展示やイベント等、お客様の探求心を喚起し、体験を通じて、感動や喜びを感じていただけるような、新たな提供価値を生み出し、たゆまぬ努力で未来を切り拓いてまいります。

② 施設・設備・展示物の老朽化対策

30周年時に積み残していた課題解決のため、関係者の方々のお力添えをいただきながら、2026年度までの施設・設備に係る5ヶ年中期計画を引き続き進捗させてまいります。また、展示物についても、それぞれの価値を再評価し、老朽化対策を深度化させてまいります。

老朽化対策は、お客様の安全・安心と当館の運営の根幹に関わる最重要案件であり、将来に亘って安定した館運営ができるよう、着実に対策を講じてまいります。

(2) 関係者の方々との絆を強固にし、効果的なプロモーションを実施すると共に、コスト削減と効率的な業務運営を行い、コロナ禍前の水準の来館者数と収入の確保を目指します。

① 来館者数の目標

2024年度の来館者数は、コロナ禍前の水準である20万人を確保し、それを超えていくことを目指します。敷地内の「空飛ぶ学び舎ラボ」との連携や、町のスカイパークしばやまの観光拠点化と歩みを一にし、商談会やWeb等による発信等、インバウンドを含めて、一層の誘客に力を入れて、新たな人流を創出してまいります。

② 業務改善意識の徹底及び収入の最大化

顧客志向・ガバナンスの強化の観点から、脱自前主義を更に推進し、働き方改革と、「やめる・とめる・なくす・たくす」の観点から、働きやすさと業務効率化のためのシステムの導入等、既存業務のあり方を見直してまいります。併せて、当館の将来を担う、柔軟な発想とチャレンジ精神を有する、広い視野をもった人材を育成するため、職員教育を更に充実してまいります。

また、コスト意識を引き続き徹底させ、情熱を持ち、新たな発想による自助努力で、戦略的に収入の最大化を図ります。

③ お客様満足度の維持向上

社会に開かれた重要な公共スペースとして、人とモノとの間に起こる創造的なコミュニケーションを提供する場としての、心の充足・ウェルビーイングをはじめ、お客様の満足度の向上を追求し、期待を超えるサービスの提供を目指します。

また、旅行サイト等における高い評価を維持向上させるべく、アンケートの活用を強化をはじめ、お客様の声に真摯に耳を傾けながら、誰一人取り残さず、多様なお客様にとって価値のある場所、記憶に残るミュージアムとして、多くの方々に喜ばれる館運営を目指します。

(3) 空港・航空業界と空港周辺地域との懸け橋となり、空港隣接の観光・文化拠点、情報発信拠点として、地域の活力の向上、空港圏の繁栄に貢献します。

① 航空業界の将来の担い手不足解消への貢献

成田空港の更なる機能強化が進む中、将来懸念される航空業界の担い手不足に対して、空港・航空業界の関係者、教育機関の関係者、地域関係者の方々等との連携により、当館の展示やイベント等を通じて、成田空港・航空業界で働くことの魅力を伝える情報発信拠点として貢献してまいります。また、町と「空飛ぶ学び舎ラボ」との効果的な連携により、「航空教育の聖地化」のブラ

ンディングを進め、空港圏の人口増の視点を持ちながら、教育環境に恵まれた街づくりの推進に貢献します。

② 観光を活用した地域づくりへの貢献

成田空港に隣接した観光拠点として、地域の関係者、空港関係者の方々等との連携を通じて、「スカイパークしばやま」を核とし、地域の観光資源や産品等を活かして、地域の広域な観光を促進する視点を持ち、観光を活用した持続的発展が可能な、未来創造型の地域づくりに貢献してまいります。博物館法が改正され、地域と協力し地域の活力を向上させることが求められる環境下、博物館の地域文化振興面の役割を再認識し、産官学民、社会教育施設・文化施設・商業施設・市民団体等との連携を強化すると共に、地域住民のニーズに積極的に応え、地域にとって当館があつてよかつたと思われるような、地域の誇りとなれるような、地域に根差した施策の推進を図ります。

③ SDGsの取り組みへの貢献

博物館は、開かれた公明正大な存在として、また、文化をつなぐミュージアム・心の豊かさの拠り所として、単なる文化教育施設というハコにとどまらない様々な社会的・地域的な課題を解決するための資源としての役割が求められてきております。多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現が求められる中、関係者の方々と連携し、SDGs教育プログラムの造成をはじめ、オール千葉で目指すSDGsの活動や、「サステナブルNRT2050」による、脱炭素化社会の実現等を目指す関係者の方々の取り組み等に、積極的に協力してまいります

2 具体的施策

(1) 公益事業

① 行事計画（別紙参照）

i 企画展示「月刊「航空情報」～72年のあゆみ～」2024年4月～5月

2023年12月号をもって休刊した、月刊「航空情報」に焦点を当てた企画展示です。戦後初の航空専門雑誌であり、戦後航空再開から現在に至るまでの同誌が、私たち読者に与えてくれた航空界のあゆみに様々な視点から触れ、その変遷をたどる企画展とします。

ii 企画展示「二宮忠八の飛行器展」2024年6月～8月

1889年にライト兄弟よりも先に「飛行器」の原理を考案した人物「二宮忠八」を紹介する展示です。二宮忠八の飛行アイデアを具現化したものは小型模型の「カラス型飛行器」と「玉虫型飛行器」であり、実際には資金が足りず実機の開発は叶いませんでした。この企画展示では当館所有の実物大模型（レプリカ）の玉虫型飛行器を展示することで、二宮忠八のアイデアに迫ります。

iii 企画展示「二宮康明 一紙飛行機の神様」2024年10月～11月

紙飛行機の世界的権威である二宮康明氏が、2023年11月15日に亡くなりました。日本紙飛行機協会会長を務められ、雑誌「子供の科学」で長年連載を持つなど精力的に活動を行って

た、二宮氏の偉業を称えて、その足跡を辿る企画展示とします。

iv 企画展示「航空アート展「青木勝 747 写真展」2024 年 12 月～2025 年 2 月

航空写真家として著名である青木勝氏から寄贈を受けた、ボーイング 747 写真パネルを展示するアート展です。寄贈を受けた全 57 点すべてを展示し、747 の雄姿を芸術的な視点から見ていきます。また、今年は 747 初飛行から 55 周年の節目となりますので、併せて、盛り上げてまいります。

v 航空講話

航空に関する啓発活動として、従来からの、パイロット・客室乗務員・グランドスタッフ・航空管制官からの講話に加えて、税関、航空物流、航空給油等、更に広く、現場で働く空港スタッフの生の声を聴くことのできる機会を設けてまいります。将来の航空人材の育成のため、青少年をメインターゲットにして、それぞれの職業の意義ややりがいなどの紹介をします。

vi 関係者とのコラボレーション企画

【空港・航空分野の企画】

「集まれ！成田空港車輜」、「ANA 空港おしごと体験教室」、「JGS グランドハンドリング教室」等のイベントを通じて、将来の空港業務の担い手となる子供たちを含め、来館者に楽しんでいただきながら、業務の内容や成田空港・航空業界で働くことの魅力を伝えます。

また、現下の課題となっている航空人材の確保の一助とするために、2018 年から実施している「夢へのフライトプラン～航空学校説明会～」を、より関係者との協力を密に、内容を充実させてまいります。

【科学関連分野の企画】

日本大学生産工学部とのコラボイベント「飛行機が飛ぶ原理で風車を回せ！」を実施することで、航空科学の普及に貢献します。また、(一財)航空交通管制協会と日本無線(株)の協力を得てラジオ製作を通じ航空無線の仕組みを学ぶ「ラジオ製作教室」を行います。

上記以外にも、前年度同様、関係者の方々との新規イベントや展示については、将来の航空人材の育成、社会貢献・地域貢献の意義を踏まえて、随時、弾力的に共同企画により、年間行事に織り込んでまいります

vii 多客期におけるイベントの開催

ゴールデンウィークや夏休み等の多客期には、折り紙飛行機教室やゴム動力飛行機製作教室等のイベントを開催し、より多くのお客様の来館につなげてまいります。

viii 地域イベントへの協力

空港に隣接した観光拠点として、空の日関連行事や「はにわ祭」「サイクルツーリズム」等、芝山町をはじめとした空港圏・地域で開催されるイベントに積極的に協力し、地域の賑わい創出に貢献します。特に、「スカイパークしばやま」の観光拠点化による、空港南部地区への誘客に力を入れて

まいります。

② 展示整備

i 展示物の維持管理

館内の展示物については、展示点数の増加や収蔵展示物との定期的な入れ替えなど、魅力を高めるべく、展示手法や今後のインバウンド増を見込んで案内表示の見直し等を行います。

引き続き、来館者の安全、安心を念頭に展示物全体の点検を実施し、必要な修繕や適宜の洗浄等を行いながら、適切な維持管理に努めます。

ii 収蔵物の再整理

当館の収蔵物は、模型・航空部品・資料等、多岐に亘り、現下、分類、収納、目録の作成を進めておりますが、博物館法の改正を受け、今後4年間にデジタルアーカイブ化による公開を念頭に、また、コスト面から、収蔵物の再評価を行い、取捨選択を図りながら、適切に整理・管理する手法を構築してまいります。新規の収蔵物については、寄贈等の受入れを含めて、価値の高いものを収集、収蔵してまいります。

ライブラリーについては、来館者の方々の利用動向や利用実績を見ながら、より魅力あるライブラリーとすべく、収蔵図書・資料の管理を効率化し、子供連れのお客様を含め多くの方々に喜ばれる空間にしてまいります。

③ その他

i 友の会の運用

当館の賛助会的な位置づけである友の会は、当館の良き理解者であり、当館の運営にとって大切であるとの認識を新たにし、会員数の拡大を目指すべく、会員との交流を緊密にするため、各種見学会の開催など会員の方々の満足度を向上させる企画を立案し、随時実行してまいります。

(2) 収益事業

① 収益事業の充実

公益事業を補完する収入を確保するため、引き続き効率的な運営を徹底し、売上の増加とコストの削減に努めます。また、成田空港の機能強化に併せ進んでいる、地域ビジネスの開発に積極的に協力すると共に、脱自前主義・オープンイノベーションによる外部との共創に力点を置いてまいります。

② 物販店舗の運営

日々の売り上げデータやトレンド等から売れ筋動向を分析し、一般のお客様から航空関係者に至るまで、幅広い層のニーズに対応した売店として運営してまいります。本館1F「ミュージアムショップ」のほか、第1ターミナルビル 5F「パイプライン」との連携により、効果的な商品展開等に努めま

す。また、関係者の協力を得て、新たなオリジナル商品の開発にも力を注ぎます。

③ レストランの運営

成田空港が一望でき、迫力ある航空機の離着陸を展望できる好立地を活かし、関係者の方々の協力も得ながら、当店ならではの「オリジナルメニュー」や季節に応じた新規メニューの開発を行い、利用促進に努めます。また、関係者の協力を得て、ディナータイムの特別運営等、レストランの新たな活用法を開拓します。

④ 催事店舗等による収益の確保

キッチンカーや軽食コーナー、クラフトコーナーを本館入口付近や体験館に設置し、お客様に喜んでいただきながら収益に貢献できる催事店舗を誘致します。また、有料体験装置や自動販売機についても売り上げ動向を見ながら効果的な運用を図ります。

(3) 広報プロモーション活動

① 全般

広報プロモーション活動全般について、今年度もコストを抑えながらに最大限の効果を発揮できるよう努めてまいります。

② ホームページ・X (Twitter)の活用

当館のホームページを使った情報発信について、関係者の協力を得ながら、よりお客様に伝わりやすい媒体となるよう、コンテンツを更に充実させてまいります。

また、X (Twitter)による適時の情報発信とともに、来館者数増と当館のプレゼンス向上につながる広報プロモーションに力を入れてまいります。

③ メディアへの訴求

TV・映画・雑誌等、メディアからの取材や撮影利用を促進するため、関係者の方々と協力して、当館の魅力をメディア関係者に積極的に伝え、収益と共に知名度を向上させ誘客につなげてまいります。メディアに訴求する際には、空港圏、「スカイパークしばやま」に所在する博物館であることの自覚を忘れることなく、当館のみならず地域全体をプロモーションする意識で対応します。

④ 地域の観光拠点・情報発信拠点としての貢献

日本らしさ・日本の自然や文化に触れられる「スカイパークしばやま」の発展に、空港周辺の目的地化を目指し、体験型自然公園である「グリーンポートエコ・アグリパーク」や「芝山水辺の里」との連携を強化し、貢献してまいります。

また、空港圏各市町の観光案内、ポスターの掲示・ちらしの配布等、空港圏の観光資源の情報発信拠点としての機能を果たし、広域的な観光開発の観点から、地域の賑わい創出と観光を活用した地域づくりに貢献します。

⑤ 旅行・観光事業者及び交通事業者との連携

旅行事業者や県内観光施設の運営事業者の方々との連携を、成田空港活用協議会やちばプロモーション協議会、千葉県観光物産協会等の枠組みにより強化し、魅力あるツアーの造成やお客様の広域の回遊性を高め、公共交通機関の利用者利便も図りながら、一層の誘客に積極的に努めます。

また、会議体の誘致など、「ユニーク・ベニュー」としてのプロモーションをはじめ、従来の思考様式に囚われない自由な発想から、新たな利用形態として、様々な方々からの当館の利用を促進させてまいります。

⑥ 他の博物館等との連携

博物館協会等の業界団体や他の博物館・文化施設との交流促進を図り、博物館としてのあるべき姿を常に意識しながら、より一層、来館者・お客様に喜ばれる博物館運営に努めてまいります。特に、芝山町内に所在する「芝山町立芝山古墳・はにわ博物館」及び「成田空港 空と大地の歴史館」については、広報等を共同で実施する等、お互いに協力関係を深めて、誘客効果を高めます。また、当館が加盟する、「日本博物館協会」、「全国科学博物館協議会」、「千葉県博物館協議会」、「航空イノベーション推進協議会(AIDA)」の枠組みにより、他館の運用手法を学び、文化庁や千葉県が進める博物館の在り方の見直し等の進捗を踏まえながら、職員・スタッフの在り方や、博物館運営の在り方を検討し、当館の知的・人的・物的資源の生産性の向上と組織力の底上げを図ります。